

ランの香り ニオイエビネ

廣瀬清一 事務局

花屋では、カトレア、シンピジューム、オンシジウム、デンドロビウム、バンダ、胡蝶蘭などの艶やかな花が目にとまる。カトレアや胡蝶蘭は、開店祝いや就職祝いといったお祝いのシーンのフラワーギフトの定番である。意外にもこれらは同じラン科の植物である。

蘭は、熱帯から寒帯まで広範囲に分布し、世界中で2万種以上の原種があり、交配種にいたっては数十万種といわれる。

蘭は虫媒花として特定の昆虫と密接な関係を持ち進化してきたと考えられている。環境と昆虫に合わせて、花の形、色彩そして香りで巧妙な仕掛けを造り出している。

蘭のこの多様性は、コレクターの好奇心を駆り立てる。エリック・ハンセン氏は著書「ラン熱中症」の冒頭に「アルコールが癖になっても、やめることはできる。薬も女も食べ物も、車だって断つことはできる。だが、ランにとりつかれたら、おしまいだ。逃れることはできない……絶対に」と、蘭栽培家ジョーク・クーニッシュの言葉を載せている。

ローズ、スズラン、ジャスミン、ヒアシンズ、スマイレ、クチナシなどの花からチョコレート、クッキー、ニッキ、バニラ、菓子、果物、蜜の食品といろいろ多様性に富んだ蘭の香りは、香りの専門家の興味を掻き立てずにはおかない。さらに、蘭は標的となる昆虫の活動時間に合わせ誘引する香りを出す。必ずしも芳香ばかりでなく、時として悪臭であったりもする。

さて、毎年2月に東京ドームで開催されている「世界らん展」では、世界中から洋蘭、東洋蘭・日本の蘭が集まり、その美を華やかに競い合う。出品作品には、この寒い時期に合わせて、最高の状態の花を咲かすための隠れた努力が払われている。その会場に一步足を踏み入れると、外では想像もつかない、華麗な彩りの蘭の世界が広がる。

フレグランス部門

最優秀賞(2008年)



ニオイエビネ *Cal. izu-insularis* ‘春の輝き’

城市篤氏 撮影

ここでは、特別に蘭のフレグランス（香り）の審査も行われている。フレグランス部門のコーナーでは、身近に多様な蘭の香りを楽しむことができる。

このフレグランス審査は、外見だけでなく蘭の香りも楽しんで欲しいとの福原義春氏の発案によるもので、1989年の「蘭・インターナショナル・オーキッド・ショー」に始まる。

この要望に応え、当会の中村祥二会長が香りの審査基準を作り運用してきた。

個人的な香りの好みのを排除して、できるだけ客観的な判断ができるようになっている。

審査は、香りの強さと拡散性、香りの質（上品な、高貴な、清々しい、やさしい、ソフトな、バランス

のとれた、親しみやすい、華麗な、豪華な、さわやかな、清楚な、新鮮な、透明感などの評価項目)、またネガティブな部分についても評価される。複数の審査員によって行われる。

2009年から審査のまとめ役を中村会長より引き継いでいる。

過去の「世界らん展-日本大賞」では、東洋蘭・日本の蘭では春蘭、春寒蘭、富貴蘭、エビネが、洋蘭ではカトレア、ブラソレリオカトレア、エピカトレアがフレグランス部門で最優秀賞を取っている。幾つかは既に中村会長より、国際香りと文化の会の会報誌「VENUS」、Webの「HP版VENUS」に紹介されている。

ここでは、過去28回の「世界らん展」で、最優秀賞2回、優良賞6回を獲得しているニオイエビネについて紹介する。

エビネは、茎はひょろりとして、花は控えめで、何とも淑やか姿をしている。

エビネの学名のカランセ (*Calanthe*)は、ギリシア語の *kalos* (美しい) と、*anthe* (花) の合成語で、「美しい花」という意味。和名「エビネ」は地下の連なる球茎が海老に似ているところによる。エビネは日本や中国をはじめインド、オーストラリアなどを中心に分布している。

日本の代表的な原種としては、キエビネ (*Cal. sieboldii*)、キリシマエビネ (*Cal. aristulifera*)、サルメンエビネ (*Cal. tricarinata*)、ジエビネ (*Cal. discolor*)、ニオイエビネ (*Cal. izu-insularis*) がある。この内ニオイエビネ、キエビネの系統には良い香りがある。

ニオイエビネは、伊豆七島の御蔵島をはじめ神津島、新島に1970年代までは自生していたが、山野草栽培の大ブームの後、自生する姿を消してしまった。

ニオイエビネの花は、淡紫紅色から淡桃紫色で、まれに、濃紫色や白色の個体もある。花弁はよれるように後方に湾曲して咲き、唇弁は通常白色、基部には濃い黄色の点がある。長い距をもち、良い香りがする。

フレグランス部門 最優秀賞受賞のニオイエビネ ‘純’ (1992) : ジャスミンとスズラン様の華やかで強い広がりのある香りで、女性らしさと上品なセクシーさも感じられた。

ニオイエビネ ‘春の輝き’ (2008) : 爽やかなスズラン様のフローラルタイプの香りで拡散性があり、とても上品な香り。花のふくよかさが感じられた。

今年の「世界らん展」は、様々な花と緑の魅力を取り入れ、新しい「世界らん展 2019-花と緑の祭典-」として開催される。香りの審査時間が午前から午後に変わる。どのような蘭が賞に選ばれるかと心が弾む。

参考文献 :

『ニューオーキッド』109号 新企画出版 2001年
『ラン熱中症-愛しすぎる人たち』エリック・ハンセン、屋代通子(訳) 日本放送出版協会 2001年